

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

## 教育ツールの可能性

行 川 一 郎

日本でもスマートフォンが普及しつつある。ビジネスマンがメールやいろいろな仕事関係のファイルを便利に閲覧、送受信するための機器だったが、iPhone が登場して以来、娯楽や検索その他もろもろの使い方ができると評判になり、大げさにいえば今では一時代を画した感じだ。当然、その可能性に注目している大学も多く、たとえば青山学院大学（社会情報学部）で学部生と教員に配布してから既に1年が経つ。横浜商科大学でも4月から全学生と教職員を対象に iPhone を導入しており、いずれの大学も他に抜きんできた教育システムの構築を目指している。学生に聞くとメールや検索などのちょっとしたことでいちいちパソコンを操作するのは面倒だという。現実には学生との連絡はメール、それも携帯メールが中心となっている。道具（ツール）は手頃で手軽で手近なもののがたやすく使えてこそ生きた使われ方をするというが、まさに携帯電話は現代の若者にとってそのような道具と化している。それが近いうちに iPhone のようなスマートフォンへと取ってかわっていくのだろうか。

メール打ちをする学生の姿にもようやく慣れた感があるキャンパスだが、そのうちにタッチパネルを叩きながら出席通知を確認したり教科のミニレポートを送る学生の姿を当たり前と思うようになるのかもしれない。折しも iPad が今春発売になり、世界市場での累計販売台数は発売後3ヶ月を経ずして300万台を越えたと報道されている。俄然タッチパネルPCやタブレットPCが脚光を浴びているのもうなずけよう。機能や操作性にはまだまだ多くの問題点があるとは思ふものの、多彩な可能性を有しているのは確かである。あのようなスタイルの道具が幼児教育や初等教育に持ち込まれた場合のプラスの可能

性とマイナスの影響について筆者は寡聞にして知らないのだが、少なくとも大学のような教育環境では相当有益な道具、即ち教育ツールたり得るだろう。ノートパソコンを使いながら授業を受ける学生を見かけることも多くなっているが、いつしか大半の学生がタッチパネルを大学ノート代わりに使いこなしながら受講するようになるのかもしれない。FYS でノートテイキングをムキになって教えた身としては若干複雑なわだかまりがよぎるところでもある。

最近では新聞を購読しない人や家庭が増えているという。朝日新聞社が2010年3月期に営業損益が40億円の赤字となったのは広告収入の減少が過半の理由とされるが、加えて新聞が売れなくなっていることも影響していることは否めない。ネットがあるから新聞は要らないという趣旨の発言をしたのは堀江貴文氏だが、それを考え違いとする見識も、学生を始め多くの人達がネット配信のダイジェストニュースを携帯電話で見るといったライフスタイルの現実になじ伏せられつつある。そこに示唆されている危険な陥穽は物事の一部もしくはエッセンスだけで全てがわかったようになるという大なる勘違いと、物事の本質を深く探索することができなくなるという思考の後退である。

道具は使い手が意のままに便利に使いこなせてこそ価値がある。実はかつてのパソコンもそうだった。機能の低さと使い方の難しさが災いして、こんなものが何の役に立つのかと揶揄されたこともあった。しかし今日パソコンなしでICT社会で暮らすことは困難だ。新たな可能性を持った教育ツールの力を借りて学生の能力を引き出し伸ばせるのならば、こんな喜ばしいことはない。しかし、道具に頼りすぎるのは邪道という昔気質の声も聞こえる中、改めて描くべき教育の未来が気になっている。

(所員／なめかわ・いちろう)

## 2010年度新規共同研究プロジェクト

2010年度新規研究プロジェクトとして次の3プロジェクトが採択されました。

### 1. 利害関係者による社会的企業化の満足度測定に関する研究

メンバー 菅原晴之教授 (代表)、柳田仁教授、小島大徳准教授、ビシュワ・ラズ・カンドル国際経営研究所客員研究員

#### 研究の目的

利害関係者は、特に大企業に対して社会的企業であることを求めている。本研究では、利害関係者が求める企業像を提示することを目的し、以下の内容にて継続研究をする。

- ① 社会的企業の学術的系譜
- ② 社会的企業の国際比較研究
- ③ 社会的企業度を測定するツールの確立

#### 期待される成果

利害関係者の求める社会的企業を明らかにし、企業がいかに社会的企業化しているかについて数値による測定ツールを開発する。また利害関係者が求める社会的企業像を解明し、具体的な数値で表すシステムの構築を試みる。さらに本研究の実現により、企業規模や資金力・組織力を問わず企業経営者に、利害関係者が求める社会的企業イメージ提示が期待される。

### 2. サービスオリエンテッドなデザイン手法の研究 —本格的なユビキタス時代に向けたサービスデザインのあり方—

メンバー 飯塚重善准教授 (代表)、行川一郎教授

#### 研究の目的

現在日本で行われているサービス/プロダクトデザインは、市場調査やユーザ調査などに基づいて行われている。しかし、ユーザの消費意識は「モノ」から「コト」へと変わり「新たなエクスペリエンス」に価値を求めるようになってきている。そのため従来のデザイン開発では、ユーザの気持ちを捉えるサービス/プロダクトデザインが難しくなっている。これから本格化するユビキタス社会における商品やサービスの開発では、未来の社会を見据えた仕事や生活のあり方を創造し、

人間生活に必要なサービスを考え、サービスを利用するユーザを描き、最も適したサービスを構想し、そのインタラクションを具現化するサービスやプロダクトをデザインする「サービスオリエンテッドなデザイン」が重要になってくると考える。本研究では、そのためのデザインプロセス (手法) の開発・確立と具体的な適用事例を積み重ねていく。

#### 期待される成果

企業にとって、以下のような利点を得られ、経営に寄与できるデザイン手法が確立できる。

- ① 開発の源泉となるユーザを明確にできる
- ② 使いやすく、わかりやすいサービス・プロダクトのデザインが可能になる
- ③ ユーザ (顧客) に喜ばれるサービス・プロダクトの開発が可能になる
- ④ 企画・開発関係者で、次世代に向けたビジネスのベクトルが明確になる
- ⑤ 企画・開発関係者間での合意形成がスムーズになり、企画・開発のスピードアップやコスト削減が図れる

### 3. イギリス中世からルネサンスおよび宗教改革期にかけての言語および文化の変遷

メンバー 池田明子特任准教授 (代表)、和田忍特任准教授

#### 研究の目的

近代イギリスで起こったナショナリズムの高揚が同時期に作成された聖書等の具体的なテキストを検討することにより、どのように形成されたかを検証する。イギリスにおける宗教的情勢がカトリックからプロテスタントへと移行する中で使用される言語がどのように変化し、また社会、文化へどのような影響を与えたのかを考察する。

#### 期待される成果

宗教およびナショナリズムは、その表れ方により、国、時代の特徴が出ると同時にその検討結果を他の社会へ敷衍することも可能である。宗教とナショナリズムが時として過激に表れる現代社会を考えるにあたり、その両者に大きな変化があった時期のイギリス社会を研究することは有益であると考えられる。

## 現場改善と生産情報システム

管理問題と改善問題

問題には管理問題と改善問題があります。管理問題とはシステムの構造は変えずにその運用を巧みにして少ない犠牲で大きな便益を得ようとするものであり、改善問題はシステムの構造そのものを変えてしまおうという方策です<sup>④</sup>。

日本の製造業が他国の製造業に比べて圧倒的に勝っている点は現場の改善力です。KAIZENという日本語が海外でも通用するようになったことがその“改善力”を物語っているのではないのでしょうか。

私はこれまで色々な製造現場の改善のお手伝いをさせていただきました。生産管理、作業訓練、作業設計など様々な面でお手伝いさせていただきましたが、どここの企業に行っても

「あその企業がああやっているのだから、わが社も真似すれば良いのでは？」と考える現場を知らない人が必ずいます。そ

のような人は「トヨタのカンバン方式を採用すれば簡単に在庫を削減できるから、カンバン方式を導入しよう！」と簡単に言っているだけです。しかし、それは大きな間違いです。トヨタは現場に力があつたから、ムダを徹底的に排除する生産方式が実現できたのです。現場に力のない企業がいくら他の企業を真似してもうまくいきません。その理由は「まったく同じ現場など絶対ないからです」。基本的な概念でうまくいきそうでも、それを運用するとなると様々な例外が発生します。その例外を自社流に改善できる力がないと成功しません。まずは現場の改善力を養うことが大事でしょう。

ソフトウェアで解く問題は管理問題

数十年前、MRP(Material Requirements Planning)という高価な部品所要量計算システムが日本にやってきました。最初はすごいシステムがやってくると皆が思ったようですが、いざその考え方を知ると「なんだ、そんな考え方なんて昔からわかってるし、もう実践してるよ」と思った

道 用 大 介

人も少なからずいたようです。そして、MRPは一部では悪名高きシステムになってしまいました。なぜかという、MRPはかなりの状況が固定された状態でしかうまく動かないためです。1970年代のアメリカでの導入では6~8割が失敗したといわれています。決められたことを守っていればMRPは動きますが、生産計画の変更があったり、設計の変更があったり、試作や修理のために部品を急に使って数が合わなくなると、使いものにならなくなってしまうのです。日本の製造現場のように現状が頻繁に変わってしまうような工場では、変化に対応できないMRPのようなソフトウェアは改善活動の足枷にすらなってしまうことがあります。MRPはその後、計算速度の向上に

より性能を向上させ、ERP、SCMパッケージソフトなど、その時代の流行ソフトの中核に存在し続けていますが、MRP自体の根本的なロジックは変わっていません。

ERPやSCMパッケージソフトは使いどころを間違わなければ非常に有用なソフトウェアです。しかし、その導入費用は場合によっては何百億という単位になってしまう高価なソフトウェアでもあります。それらを製造現場に導入するときは、中核にあるMRPの限界を認識し、ソフトウェアのやり方に現場のやり方を合わせるができるのかどうかの吟味が必要です。所詮、ソフトウェアが扱う問題は管理問題です。ソフトウェアに現場を合わせるということはこれまで培った改善力を放棄しかねないというリスクも認識する必要があります。

今後の生産情報システムには、ソフトウェアのダウンサイジングによって簡単にスクラップ&ビルトを繰り返すことのできる仕組みづくりが必要なのではないのでしょうか？

(所員/どうよう・だいすけ)

## 研究余滴

[注] 『IE問題の解決』川瀬武志, 日刊工業新聞社

## 研究所の活動状況と新しい試み

### 新規事業計画

テーマ：全員参加型の地域経営の実現をめざして一草の根リーダーシップの醸成

計画進捗状況：2つのプロジェクトが進行しています。

まず、小・中・高校生からグループ研究を前提とした、“私たちの街の未来設計（仮）”です。7月のできるだけ早い時期に市役所、教育委員会、地域内当該小・中・高校をまわり、趣旨説明し生徒や学生からの共同研究への協力要請をお願いする予定をたてています。同時にマスメディアを使った販促も企画しています。

秋に入ってから応募してきた研究成果を研究員の力を借りて、審査します。応募締切りは9月末を想定しています。審査結果の講評を経て発表会は、11月20日（土）の予定です。質の高い研究成果については、地域内で公表する機会を創り地域経営に関心のある人達の間で学習機会を共有化したいと考えております。

次世代を支えるヒト達から多様なエネルギーや大胆な発想を引き出し、閉塞感漂う昨今の経済社会現象に“風穴”を開ける狙いがあります。“出会いの場”を提供することによって、新しい地域経営のあり方を探ることができそうです。

もう1つは得意技をもつヒトの紹介です。題して“街のコンシェルジュ”です。専門領域を異にする住民がお互いの得意技を共通データベースに登録し、たとえ知らない同士でも助け合う機会が得られることを意図した仕組みづくりです。漠としたところがあり、説得性に欠けるきらいがあります。第一段階では、領域を趣味や生活のような身近な分野にしぼり、どの程度のニーズがあるかをテストすることを考えています。9月までにデータベースの基本設計を終え、秋口に実験に入りたいと考えております。皆さんからの智恵やアイデアが必須です。お力をお貸しください。

### [研究所からのお願い]

1. 研究成果特に共同研究成果にかかわる自己点検・評価  
研究報告書作成時に、個別研究成果と全体研究への貢献度を明記してください。大学基準協会からの指摘にもあるように、個別研究と組織全体研究との整合性、連動性が問われています。報告用紙に当該項目の記入欄を用意しておきます。
2. 刊行物のリポジトリ登録

学内の学術情報委員会で学部、大学院を含む諸種の刊行物を図書館でリポジトリ登録することが決まり、研究所所有の既存の刊行物については登録作業が完了しました。研究所では、『国際経

営フォーラム』『マネジメント・ジャーナル』の2つの刊行物が登録の対象になります。

今後発行される論文などについては、あらかじめ執筆者の承諾を得てからの登録になります。詳細は、研究所または図書館にお問い合わせください。

### [お知らせ]

1. リーフレット改訂版の発行  
新規事業計画が始まる年に連動させて、現在の研究所の全貌を紹介する内容になっています。
2. 研究所のホームページ作成  
研究所の活動を地域や社会に向けて本格的に発信するために、現在作成中です。内容は歴史、理念、特徴、主な活動、などが中心になります。7月中には第一バージョンが完成予定です。アドレスは、以下のとおりです。  
<http://iibm.kanagawa-u.ac.jp>  
E-mail: [iibm-shounan@kanagawa-u.ac.jp](mailto:iibm-shounan@kanagawa-u.ac.jp)
3. 研究所のファックス機 (0463-58-9683) が既存のコピー機に併用の、ファックス機能一体化に変わります。今後は、以下の点にご留意のうえ、いずれかの方法でご利用ください。
  - ① あらかじめ研究所に電話を入れて、送信するむね連絡をとる
  - ② 受信側に関係者を待機させておいて、受信と同期をとりながら取り出す
  - ③ 研究所の利用をやめて大学のファックス番号に送信する

### 所員対外研究活動報告

所員の対外的な研究活動で、現在進行中の研究内容を紹介するコーナーです。

所員：菅野正泰

研究助成受託先：財団法人かんぽ財団

研究テーマ：生命保険会社におけるグローバル金融危機後の統合リスク管理(ERM)手法の研究

研究期間：2010年度

研究成果：報告書作成、学会報告

### ★編集後記★

ヒトや企業、国などを揶揄する言葉に、XX 叩き(bashing)、XX 通過(passing)、XX 無視(missing)、そして XX 消去(nothing)がある。ゲームの世界では不要なものは delete キーで、いとも簡単にこの世から消すことができる。今回の行川、道用原稿にはそれぞれ含蓄があり、世評を眺めるときにどの“-ing”段階にわれわれがいるのかを考える際の参考になるフレーズが散在している。被害者ばかりでなく、知らず知らずのうちに加害者になっていることも含めて…。(E)